

あなたから私を提訴しなさい そうでないならば

差出人: 杉本徳久 Sugimoto Norihisa (sugimotonorihisa@gmail.com)

送信日時: 2012年3月10日 18:07:15 JST

(相変わらず、すごい標題である。最近、「演技性人格障害」という言葉も話題になっているが、杉本氏は自分がドラマの世界にでも生きているつもりなのだろうかと疑う。何しろ、すべての台詞があまりにも大げさで芝居がかっているのだ。他人に向かってこのように啖呵を切り、上から目線で命令するか、さもなくば、密室で脅すことしかできない。そのような方法でしか他人に接触できず、裁判しか他者へのコミュニケーションの方法もなく、平和に生きる道を知らないとは、何という惨めで哀れな生き方かと思う。これがキリスト者を次々と裁判に訴える者の末路なのである。)

杉本です。

〇〇さん、ブログでねちねちといつまでも匿名に隠れて陰口をたたきたいならば、あなたから私を提訴しなさい。あなたの名を秘したまま、私はそれをお受けして司法の場で審査、判断してもらうのが良いでしょう。

そうでないならばあなたへの内容証明郵便や訴状を送ることができる連絡先をご連絡ください。あなたが契約した弁護士の事務所でも良いです。

私はあなたの名を公開したりしたくはありませんが、これ以上、あなたのやっていることを放置もできませんので。

いつまでも逃げ回っていないできちんと対応してください。

そうすれば、少なくともあなたの名を公開しないことはお約束いたします。

誰しも匿名のブログを書く権利はあるし、匿名だからと言って、「悪意を持って匿名に隠れている」ということにはならず、私は杉本氏が自ら私について記した誹謗記事に対する反論を公に示しているのであって、「陰口をたたいている」わけでもない。人が公に記しているものを「陰口」と決めつけていることも、全く筋違いの主張である。にも関わらず、こうして、杉本氏は、私の方から同氏を提訴するようにと命令し、さもな

くば、個人情報が無断公開すると脅すのである。どうやら、人を裁判に訴えることこそ、杉本流の「きちんとした対応」であり、法廷で対決しないことが、「いつまでも逃げ回っている」という意味になるらしい。裁判を通してしか、他人とコミュニケーションを取れなくなった人間のあまりにも貧困な発想であるが、こんな芝居じみたヤクザのような恫喝によって、「おまえから俺を訴えろ！！」と息巻くことしかできないとは、何と情けない、呆れ果てるような主張であろうか。

そのような手段しか取れないのは、おそらくは自分から私を提訴しようとして、警察にも弁護士にも相手にされなかったためであろう。訴状を送れないのは、連絡先が分からないからではなく、訴えが成立しないからである。当然である。他者の名誉を棄損し、脅し、罪を犯しているのは、杉本氏の方だからである。

だが、自分が相手を提訴するだけの十分な根拠が存在しないとすると、相手に自分を訴えさせてでも、とにかくクリスチャンを教会ではなく、この世の司法という場に引きずり出して、この世で信仰の問題に決着をつけたいのである。杉本氏がこうして獅子のように人を責めて吠えたり、クリスチャンを次々恫喝しては、何が何でもこの世の法廷に引きずり出そうとするのは、同氏がもともとクリスチャンのブロガーがネットに自分の信念を自由に述べることを許せず、自分たちの活動にとって不都合な言説を述べるクリスチャンの言論を何とかして弾圧し、封じたいと願っているからである。

私はこうした願望が、悪魔的なものであることをずっと述べて来た。つまり、クリスチャンにキリスト教の問題を決して聖書に基づいて論じさせず、信仰の問題をキリスト教外のこの世の法廷に持ち出すことにより、自由な言論を委縮させ、神への信仰をこの世の法や常識の下位に置いて弾圧したいという欲望が、このように飽くことのない法廷闘争を呼び求める主張を生むのである。神の定めである御言葉についての議論を、人間の定めに過ぎない法によって裁きの対象とし、神の秩序とこの世の（悪魔の）秩序を逆転させることが、杉本徳氏や村上密氏の主張の狙いである。どれほど彼らがキリスト教界に争いを起こすことを自ら願い、争いだけを糧として生きているかがよく伝わって来る。私以外にも、どれほど数多くの信者に対して密室でこのような脅しを使って来たのだろうか。

私は時折、杉本徳久氏とは、一人の人間というよりも、日夜、クリスチャンを告発し、クリスチャンに恐れを感じさせ、苦しめることを日課とし、そのためにあらゆる卑劣な方策を尽くしてはばからないこの世の見えない暗闇の勢力の集団的悪意を擬人化したような存在のように思うことがある。少なくとも、この世には、聖書に反する、悪魔に息吹かれた思想というものが確かに存在しており、その影響を受けた人間が、その恐ろしい思想の運び屋のようになって、これを自ら体現することだけを人生目標として生きる事例があることは、これまで当ブログの異端思想の分析においても、常に示して来た通りである。

--

杉本徳久 Sugimoto Norihisa <sugimotonorihisa@gmail.com>